

令和6年度 山口県地域福祉推進セミナー

～ひとりぽっちをなくそう！誰一人取り残されないつながりづくり～

開催要項

1 趣旨

現在、ひとり暮らし高齢者や単身世帯の増加、ヤングケアラー、8050問題など、地域における孤独・孤立の問題の深刻化が懸念されています。地域住民が抱える地域福祉課題は複雑化・複合化しており、孤独・孤立を感じる要因も複雑で多様になっています。

このような中、国において、本年4月に孤独・孤立対策推進法が施行され、社会のあらゆる分野で孤独・孤立対策の推進を図ること、孤独・孤立の状態にある者及びその家族等の立場に立って当事者等の状況に応じた支援が継続的に行われることが重要であると示されました。

また、本会では、令和6年度を始期とする「第7次福祉の輪づくり運動推進県域活動計画」を策定し、基本目標の一つとして「ひとりぽっち（孤立）をなくそう」を掲げ、人と人、人と社会が支え合いながら、誰もが安心して自分らしく生活していくことができる地域づくりをめざしています。

こうした取組を進めていくためには、分野を超えた行政、専門職、関係機関の横のつながりや、地域住民や地域福祉活動者との連携が重要となります。

そこで、今回のセミナーでは、地域において孤独・孤立に悩む人が誰一人取り残されないよう、地域におけるつながりづくりを広げていくために、地域の様々な関係者の取組を理解し、それぞれの役割を考えることを目的に開催します。

2 主催

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

3 後援

山口県、山口県民生委員児童委員協議会、山口県自治会連合会、山口県老人クラブ連合会、山口県地域包括・在宅介護支援センター協議会、やまぐち県民活動支援センター、山口県共同募金会（順不同/法人格省略）

4 日時

令和6年10月7日（月）
午前10時30分から午後2時50分まで

5 会場

山口県総合保健会館 2階 多目的ホール
（山口市吉敷下東3丁目1番1号 TEL:083-934-2200）

6 参加費

無料

7 定員

400人（定員になり次第締切となります。）

8 対 象

市町社会福祉協議会役職員、ボランティアコーディネーター、地区社会福祉協議会役職員、民生委員・児童委員、主任児童委員、福祉員、ボランティア、老人クラブ会員、自治会・町内会関係者、NPO、施設役職員、区市町行政職員、学生、その他地域福祉活動に興味のある方

9 日 程

プログラムの詳細については、別添「研修会プログラム」に記載しています。

10:00～	受 付
10:30～	開 会
10:40～12:00 〔80分〕	基調講演 「誰も取り残されない支援」(仮題) 【講師】 社会活動家 東京大学先端科学技術研究センター 特任教授 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長 湯 浅 誠 氏
12:00～13:00 〔60分〕	昼食休憩
13:00～14:50 〔110分〕	実践報告 「誰一人取り残されないつながりづくり」(仮題) ～地域における孤独・孤立の現状について～ 【報告者】 ・社会福祉法人 美祢市社会福祉協議会 地域福祉課 主任相談支援員 岡 村 久美子 氏 ・NPO法人市民活動さぼーとねっと 副代表理事 京 井 和 子 氏 ・母子生活支援施設 沙羅の木 施設長 岩 城 克 枝 氏 【コーディネーター】 社会活動家 東京大学先端科学技術研究センター 特任教授 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長 湯 浅 誠 氏
14:50	閉 会

10 参加申込方法

令和6年9月20日（金）までに、下記申込フォームからお申込みください。

[申込フォーム（Googleforms を使用しています）]

<https://forms.gle/K2zTTR8LShfD815f9>

※申込フォームの URL は、HP でも御案内しています。

※記入いただいた個人情報は、研修会の運営目的のみに使用いたします。

なお、当日資料に所属先、役職名、氏名を掲載いたします。



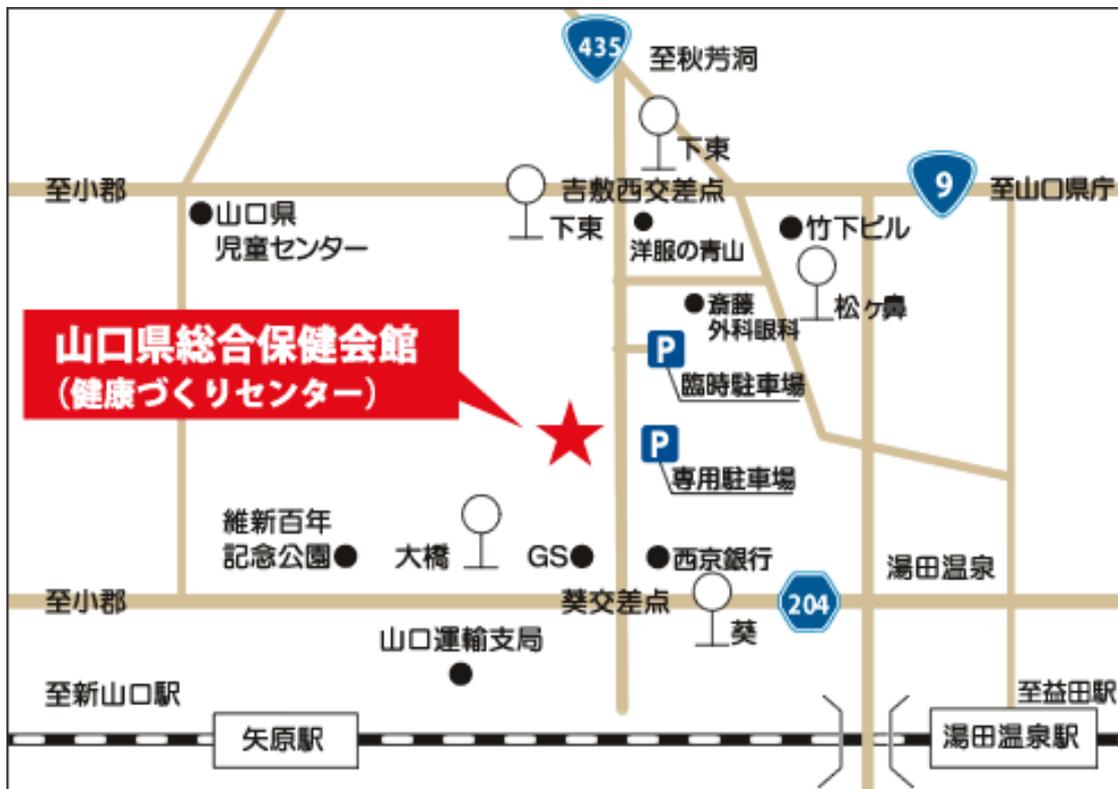
11 その他

- (1) お弁当（お茶付 800 円：税込）をあっせんしますので、必要な方は参加申込時にお申込みください。お弁当の代金は当日お弁当受付でお支払い願います。
- (2) 駐車場には限りがありますので、乗り合わせの上、早めに来場ください。

12 申込み・問合せ先

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
地域福祉部 地域福祉班 担当：中本、山本
〒753-0072 山口市大手町9番6号
TEL (083) 924-2828 FAX (083) 924-2847
e-mail chiiki@yg-you-i-net.or.jp

13 会場周辺図



ープログラムー

■基調講演 午前10時40分から正午まで

「誰も取り残されない支援」(仮題)

講師：社会活動家

東京大学先端科学技術研究センター 特任教授

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ 理事長

湯 浅 誠 氏

《目的》

社会環境の変化により人と人との「つながり」が希薄化し、コロナ禍により孤独・孤立の問題が顕在化しました。地域住民が抱える地域生活課題は複合化・複雑化しており、孤独・孤立に至る背景や要因は一つに絞ることは難しく、孤独・孤立の感じ方、捉え方も多様になっています。

また、今後、ひとり暮らし高齢者や頼る人がいない単身世帯の増加が見込まれる中、孤独・孤立の問題の深刻化が懸念されています。

孤独・孤立の問題は、個人の問題ではなく、地域全体で対応しなければならない問題として捉え、孤独・孤立の状態にある人や世帯が「助けて」と声を上げやすい、周りが気付きやすいつながりづくりが求められています。

孤独・孤立に悩む人が取り残されないためには、相談できる誰か、信頼できる誰かとのつながりを築くことが重要であり、そのためには、日頃から地域の様々な関係者のつながりづくりが必要となります。

地域において、複雑化、複合化した地域生活課題を抱え、孤独・孤立の状態にある個人や世帯に気付き、支援につなげるために、地域住民や地域福祉活動関係者、福祉の専門職は何を進めていくのか、地域全体で支え合うためのつながりづくりなどについてご講演いただきます。

《講師プロフィール》

社会活動家

東京大学先端科学技術研究センター 特任教授

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ 理事長

湯 浅 誠 (ゆあさ まこと) 氏

社会活動家。東京大学先端科学技術研究センター特任教授。経済同友会会員。

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長。

1969年東京都生まれ。東京大学法学部卒。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。1990年代よりホームレス支援に従事し、2009年から足掛け3年間に閣府参与に就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など。政策決定の現場に携わったことで、官民協働とともに、日本社会を前に進めるために民主主義の成熟が重要と痛感する。

子ども家庭庁「子ども家庭審議会こどもの居場所部会」委員

◆ 著書

『つながり続ける 子ども食堂』(中央公論社、2021年)、『子どもが増えた！人口増・税収増の自治体経営』(泉房穂氏との共著、光文社新書、2019年)、『「なんとかする」子どもの貧困』(角川新書、2017年)、『ヒーローを待っていても世界は変わらない』(朝日新聞出版、2012年)、『反貧困』(岩波新書、2008年、第8回大佛次郎論壇賞、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞)など多数。

■実践報告 午後1時から午後2時30分まで

「誰一人取り残されないつながりづくり」(仮題)

～地域における孤独・孤立の現状について～

◆実践報告者

- ・社会福祉法人 美祢市社会福祉協議会 地域福祉課
主任相談支援員 岡村久美子氏
- ・NPO法人市民活動さぼーとねっと 副代表理事 京井和子氏
- ・母子生活支援施設 沙羅の木 施設長 岩城克枝氏

◆コーディネーター

社会活動家

東京大学先端科学技術研究センター 特任教授

認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長

湯浅誠氏

《目的》

地域で活動されている地域福祉関係者の方々に、孤独・孤立に悩む方の支援を通して、他機関との連携、つながりづくりについてお話いただきます。

《実践報告》

報告者：社会福祉法人 美祢市社会福祉協議会 地域福祉課

主任相談支援員 岡村久美子氏

市町社会福祉協議会では、地域住民の様々な地域生活課題を受け止め、課題解決につながるよう、関係機関等と連携し、継続的な支援を進めています。

社協の様々な取組を通して、孤独・孤立を感じている人や世帯が「助けて」と声を出しやすいつながりづくりについてお話いただきます。

報告者：NPO法人市民活動さぼーとねっと 副代表理事 京井和子氏

NPO法人市民活動さぼーとねっとでは、個人や団体から寄贈いただいた食料品を、事前登録した人が無料で受け取れる仕組「コミュニティフリッジ」を開設し関係団体等を通して困りごとを抱えた家庭の支援をしています。

困りごとを抱えた人や世帯に対する食の支援を通して、助け合いの仕組やつながりづくりについてお話いただきます。

報告者：母子生活支援施設 沙羅の木

施設長 岩城克枝氏

令和6年4月に家庭や学校で様々な困りごとを抱える子どもの支援拠点「コミュニティはうすみらい」を開設し、子どもたちが安心して過ごすことができる居場所づくりを進めています。

困りごとを抱えた子どもたちの支援を通して、地域で子どもたちを支える取組についてお話いただきます。